



# 七十八年日米民間環境会議

八 木 健 三

七十八年、日米民間環境会議が去る七月二十四日～二十八日、横浜市貿易センターにおいて開催された。この会議は米国のシエラ・クラブ、地球友の会などの働きかけで日本環境協会その他の自然保護団体が協力し、民間レベルで環境問題に関する情報を交換し、共通の問題解決への手がかりを論ずることを目的として開かれた第一回会合であり、当然のことながら自然保護はその重要なテーマの一つであった。

したがって私は、京都で開催された日本学術会議第四部会への出席の機会に、本協会を代表して二十四日、二十七日の両日この会議に出席した。ここに私の出席した両日の会議の様子を主とし、これに他の日程もプログラムにそっておつたえしたい。なお第四日目については、札木照一朗氏にくわしくご報告をしていただいた。

第一日(七月二十四日)

まず日本鳥類保護連盟会長・山階芳麿氏が開会のあいさつ、つづいて横浜市長・細郷道一氏のあいさつがあり、マンズフィールド駐日米大使(代理)、環境庁長官・山田久就氏(代理)、及び神奈川県知事・長州一二氏の祝辞がつづいた。つづいて特別講演に入り、米環境保護庁次長補マウスハート氏の「環境保護における日米の相互関係」及び日本学士院長・和達清夫氏の「環境問題の展望と国際協力」とが行われた。和達氏は、「天災と考えられていた大阪の高潮被害が、実は地下水汲上げによる地盤沈下であることを、すでに一九三五年ごろ説いたが、とりあげられなかった」という話を紹介し、環境問題の困難な点を指摘された。午後は主題が環境教育にあてられ、つぎの各講演が行われた。

「環境教育におけるシエラ・クラブの役割」

割

カリフォルニア州裁判長

レイモンド・シャールウイン

「日本における環境教育の現状と方向」

千葉大 沼田 真

「環境教育の比較」

スタンフォード大学 ハルミ・ペフ

「市民団体の自然保護環境教育の現状」

日本自然保護協会 金田 平

「学校における自然保護教育」

横浜市立豊田中 小松田 昭

「サンジョーキン湿地帯と生物科学」

エルセリットカレッジ

キャスリーン・クロッカー

そのあとこれらの話題提供を中心に、環境教育の目標と指導方針をテーマとするパネルディスカッションが行われた。

第二日(七月二十五日)

主題は環境汚染で、環境協会理事長・船

後正道氏の「日本の環境汚染と環境政策の特色」、ドナルド・マウスハート氏の「米国の環境保護法」をはじめとし、日本側から七名、米国側から四名の話題提供が行われ、具体的に汚染・公害の諸問題が提起された。

これを受け、パネルディスカッションとして、「日本の汚染問題の相違点と協力の方法」が十数名のパネラーにより討論された。なお午後の話題提供と平行して「日本の環境アセスメントと立地政策の特質」がとり上げられ、日米六名の方々による分科会がもたれた。

第三日(七月二十六日)

本日の主題は「環境法」がとりあげられ、ウイリアム・フェトレル氏の「米国における環境法」。名大教授・森島昭夫氏の「日本における環境法体系の特質」など四講演が行われた。

午後は「訴訟」、「行政と住民運動」及び「国際環境法」の三分科会が行われたあと全体でパネルディスカッションの「環境法の展望と日米専門家の協力」が東大教授・加藤一郎氏の司会のもとに行われた。

第四日(七月二十七日)

本日の主題は「自然保護」で、北大名譽教授・佐々保雄、デービッド・ブラワー氏らが座長となり、つぎの各講演が行われ

た。

「野生生物地域の保護法」

地球友の会会長

デービッド・ブラワー

「日本における野生生物保護の基盤と現況」

世界野生生物協会 古賀忠道

「カリフォルニアの絶滅にひんする野生動物」

シエラ・クラブ マーク・パーマー

その終わりに米国記録映画部門のオスカ  
ー受賞作品の「レッドウッドの最後」が上  
映され、レッドウッド公園を中心に、絶滅  
の危機にさらされているレッドウッドの生  
態が生々しく描き出され、深い感動を与え  
た。

午後は「絶滅にひんする野生動物」、「回  
遊魚類と栽培漁業」及び「自然保護の三つ  
の分科会が行われ、後者では釧路自然保護  
協会の札木照一朗氏が「釧路湿原の保護」  
について訴えた。これについては、同氏の  
報告を参照されたい。

最後に「自然保護と海洋生物保全の日米  
協力について」の総合討論が行われた。

第五日（七月二十八日）

主題は「エネルギーと環境問題」で、日  
本山岳会長・西堀栄三郎、レイモンド・シ  
ャーウィン氏を座長とし、主としてエネル

ギーの諸問題を論ずる四つの論文がよま  
れ、それを受けて、午後はバネルディスカ  
ッション「エネルギーと環境保全をめぐる  
日米協力の方向」がもたれた。午後後半は  
日本側代表・茅 誠司氏らを座長として総  
合評価ディスカッションがもたれたあと、  
会議要約「共同宣言」が採択され、すべて  
の議事を終わった。

その夜は歓迎会が開かれ、とくに遠来の  
米国側出席者の労をねぎらった。